

稲作情報 No.3

麦赤かび病防除・追肥（はねうまもち）・水稻育苗（高温注意）

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会 [作成: 福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会]

大麦の出穂期は平年より遅く、平野部の早いところで4月12日頃、盛期は4月16日頃、奥越地区では5月初旬の見込みです。昨年の秋冬が高温であったため、大麦の一括肥料の溶出は、例年よりも既に多くが溶出しています。

[大麦]

- ・ 赤かび病の発生防止のため、出穂期から5日後頃の開花始期と、その7～10日後の計2回の防除を必ず実施しましょう。
- ・ はねうまもちにおいて、収量向上のため、出穂期頃に窒素分で3 kg/10aの実肥を実施しましょう
- ・ 圃場内にカラスノエンドウの発生が確認された場合は、早めに手取り等を実施しましょう。

[水稻]

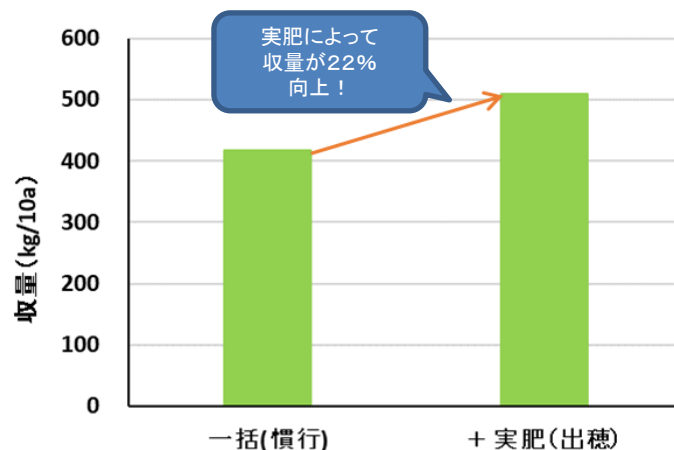
- ・ 気象庁の1か月予報では4月中下旬は例年に比べて高温になる予測です。
- ・ 浸種や催芽、育苗ハウスの温度が30℃を超えると細菌病が多発しやすいので注意しましょう。
- ・ 高温時は育苗ハウスの温度管理や水管理を厳密にして、徒長や、ヤケ苗を防ぎましょう。

【麦一括肥料の溶出の動向】



農業試験場圃場での溶出推定値の推移
(測定肥料: 大麦マスター)

【はねうまもちの実肥効果】



実肥の増収効果(R2～4)
福井県農業試験場試験結果

【麦圃場内のカラスノエンドウに注意！】



圃場に発生したカラスノエンドウ
(3月末時点の写真)

【大麦の赤かび病防除】

作業	留意事項		
赤かび病防除	防除時期と薬剤の例		
		防除時期	薬剤の例
	1回目	開花始期（出穂期の5日後頃）	トップジンMゾル、トップジンM粉剤DL、ストロビーフロアブル、チルト乳剤、ワークアップ粉剤、シルバキュアフロアブル、ミラビスフロアブルなど * 同一成分の薬剤は連用しない
	2回目	1回目の7～10日後	

【赤かび病】

- ・ 赤かび病の被害粒が10,000粒中に5粒以上混入すると出荷できない
- ・ 赤かび病菌は、主に開花期に抽出する「^{やく}薬」から感染する
- ・ 開花期の平均気温が15℃以上で、雨が続くと発生しやすい
- ・ 出穂期から5日後の開花始め（ほぼ穂揃い期）とその10日後の2回防除で効果が高い
- ・ 出穂期とは全茎の40～50%が出穂した時期である



気象予報

1か月予報（2025年4月10日発表）の解説 新潟地方気象台

向こう1か月の天候の見通し
北陸地方（4/12～5/11）

予報のポイント

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・ 低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。

		1週目 4/12～4/18	2週目 4/19～4/25	3～4週目 4/26～5/9
天候		天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
平均気温	北陸地方	低10 並30 高60% 高い見込み	低10 並40 高50% 高い見込み	低30 並30 高40% ほぼ平年並の見込み
	数値は予想される出現確率（%）です			